

- 問1 日本の果物栽培をめぐる国内の状況と海外との関係について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2025年 徳島県公立入試 類似)
1. 国内での消費量が急速に拡大したため、国内の生産量と海外への輸出品の両方が大幅に増加している。
 2. 外国産の輸入果物との競合により輸出量は著しく減少しているが、技術開発により国内の生産量は急増している。
 3. 農業就業者の高齢化などにより国内の生産量は減少傾向にある一方で、質の高さなどが評価されて海外への輸出品は増加している。
 4. 先端技術の導入により労働力が不要となったため、生産量や輸出品は変動せず横ばいで推移している。
- 問2 日本の人口構成において、15歳未満の年少人口の割合を65歳以上の老年人口の割合が上回るようになった背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 高知県公立入試 類似)
1. 医療技術の向上や生活環境の改善によって平均寿命が延び、出生率が低下したため
 2. インドや中国のような人口増加を抑えるための厳しい産児制限が導入されたため
 3. 都市部への人口集中により、地方における老年人口の死亡率が急激に下がったため
 4. 高度経済成長により乳児死亡率が上昇し、若年層の国外流出が続いたため
- 問3 日本の食料輸入と仮想水（バーチャルウォーター）の関係について、日本の畜産業が抱える課題を含めて説明した文として正しいものはどれですか。 (2023年 愛知県公立入試 類似)
1. 仮想水は飲用水の不足を補うための概念であるため、工業用水や農業用水を十分に確保できている日本においては、食料自給の議論とは無関係である。
 2. 日本は飼料作物の多くを海外からの輸入に依存しているため、畜産物を通じて間接的に大量の仮想水を輸入しており、海外の水資源の影響を受けやすい状況にある。
 3. バターなどの畜産物は、米や野菜などの農産物と比較して生産に必要な水の量が極めて少ないため、仮想水の観点からは輸入によるメリットは小さい。
 4. 日本は主食である米の自給率が高いため、飼料作物の輸入が停止しても、国内の畜産物供給や仮想水の需給バランスに大きな影響は出ない。
- 問4 中京工業地帯の製造品出荷額が、京浜工業地帯や阪神工業地帯を抑えて日本最大である理由として、この地域の産業構造の背景を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 大阪府公立入試 類似)
1. 名古屋市中心に印刷業や出版業が発達し、情報化社会に対応した付加価値の高い製品を多く出荷しているため。
 2. 岐阜県から愛知県にかけての繊維工業が、伝統的な技術を活かして世界一の高級衣料品ブランドへと成長したため。
 3. 四日市市などの石油化学コンビナートにおいて、日本で消費されるガソリンやプラスチック原料のほとんどを生産しているため。
 4. 愛知県周辺に自動車とその膨大な関連部品を製造する工場が密集し、効率的な生産・供給ネットワークが築かれているため。
- 問5 三陸沖の潮目において、多くの種類の魚が水揚げされる理由として最も適切な説明はどれですか。 (2023年 愛媛県公立入試 類似)
1. 暖流に乗って北上するカツオなどの魚と、寒流に乗って南下するサンマなどの魚が同じ海域に集まるため
 2. 水深200mまでの平坦な海底が広がっており、日光が届きやすく光合成が活発に行われるため
 3. 河川から流れ込む淡水によって塩分濃度が下がり、汽水域を好む魚類が繁殖しやすくなるため
 4. 深海から冷たい海水が湧き上がることで、一年を通じて水温が低く保たれ、北方の魚のみが定着するため
- 問6 日本の工業分布を示した資料において、京浜、中京、阪神、瀬戸内などの海岸線沿いに工場が密集し、各地で関連する工場がパイプラインなどで結ばれた「石油化学コンビナート」が形成されている様子が見られます。この産業の分布が集中している地域を総称して何と呼びますか。 (2016年 茨城県公立入試 類似)
1. 太平洋ベルト
 2. シリコンアイランド
 3. 過疎地域
 4. 近郊農業地域
- 問7 愛知県南東部に位置し、太平洋に突き出した渥美半島では、夜間に電球などの光を当てる「電照菊」の栽培が盛んです。このように人工的な光を利用する主な目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2026年 京都府公立入試 類似)
1. 夜間も光合成を継続させることで、菊の成長速度を大幅に早めるため
 2. 光を嫌う害虫が菊に寄ってくるのを防ぎ、農薬の使用量を抑えるため
 3. 開花時期を調節し、お盆や正月などの需要が高い時期に出荷を合わせるため
 4. 電球の熱を利用してビニールハウス内の温度を上げ、暖房費を節約するため
- 問8 2010年から2017年にかけて、日本のエネルギー供給構成において、石油、石炭に次いで大きな割合を占め、その比率が18パーセントから23パーセントへと上昇した資源があります。この資源について、その性質と利用状況を正しく説明しているものはどれですか。 (2023年 福井県公立入試 類似)
1. 日本のエネルギー供給において、2010年代を通じて最も高い割合を占める資源であり、その主成分は二酸化硫黄である。
 2. メタンを主成分とする化石燃料で、他の化石燃料に比べて燃焼時の二酸化炭素排出量が少ないため、発電や都市ガスとしての利用が拡大している。
 3. 「燃える氷」とも呼ばれる日本近海の海底に眠る資源で、エネルギー自給率を向上させる国産エネルギーとして、すでに国内供給の大部分をまかなっている。
 4. 泥岩の層から採取される新しい資源で、燃焼時に二酸化炭素を全く排出しないため、太陽光や風力と同じ再生可能エネルギーに分類されている。
- 問9 日本の工業地帯・地域別の特徴について、製造品出荷額等に占める「輸送用機械」の割合が50%を超えている県と、その背景にある産業の組み合わせとして正しいものはどれか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
1. 神奈川県 ― 輸出入に便利な京浜工業地帯に位置し、石油化学コンビナートが形成されている。
 2. 広島県 ― 瀬戸内工業地域に位置し、古くから造船業や鉄鋼業が中心となっている。
 3. 愛知県 ― 世界的な自動車メーカーの工場や関連企業が集中し、基幹産業となっている。
 4. 静岡県 ― 東海工業地域に位置し、楽器やオートバイの製造から電子部品製造へ移行した。
- 問10 「育てる漁業」には、栽培漁業と養殖業の2種類があります。栽培漁業において、水産資源を増やすために行われる特徴的な活動として正しいものはどれですか。 (2018年 高知県公立入試 類似)
1. 人工的に育てた稚魚を、ある程度の大きさになった段階で海や川へ放流する。
 2. 外国の排他的経済水域に入り、現地の政府に許可を得てから操業する。
 3. 海岸近くを網で囲ったいけすの中で、出荷するまで魚を管理して育てる。
 4. レーダーや音響探査機を用いて魚群を探し、効率よく大量に漁獲する。
- 問11 1960年代の日本において、主要なエネルギー源が石炭から石油へと移行した「エネルギー革命」が起こりました。この変化により、かつて炭鉱で栄えた福島県いわき市などの地域が行った、産業構造の転換に関する説明として最も適切なものを選びなさい。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
1. 公害対策を目的としてすべての工業活動を停止し、豊かな自然環境を活かした大規模な稲作地帯へと転換した。
 2. 石炭産業の衰退に対応するため、炭鉱の跡地などを活用して観光やレジャー施設を整備し、第三次産業を中心とした街づくりへと転換した。
 3. 石油への転換による労働力不足を補うため、石炭の採掘を機械化し、海外へ輸出するための大規模な港湾施設を整備した。
 4. 石油よりも石炭の価格が安くなったため、再び石炭を主役にするべく、最新式の石炭火力発電所を市内の全域に建設した。